

現場説明書

作業名 収穫調査委託（濁川地区外）

作業場所 秋田県鹿角郡小坂町荒谷外2
字小滝外6 国有林 3011 林班ろ小班外

米代東部森林管理署

事業実行における説明事項

1. 調査数量等

調査箇所及び調査数量等については、別紙1「収穫調査委託箇所の概要」による。

2. 支給材料及び貸与品について

調査に必要な材料については、当署において支給するので、仕様書等に基づき適正な管理に努めること。

なお、材料（貸与品）及び数量は別紙2によるが、事情やむをえない場合のみ追加を認める。

3. 国有林地理情報システムの借受けについて

契約締結後は、申請により国有林地理情報システムの地図データ（シェープファイル）、衛星画像の借受けが可能です。

地図情報等の借受け後は責任を持って適正に管理すること。

4. 国有林野情報管理システムの使用について

収穫調査復命書情報の入出力は、受託者が保有するパソコンから行うが、入出力に当たり国有林野情報管理システム利用申請が必要なことから、利用申請書を提出すること。なお、調査報告書作成に係る作業場所及び作業に当たり必要となる設備、備品及び消耗品等については受託者の責任において用意すること。

5. 調査箇所の境界について

収穫調査箇所と隣接する小班等の境界に疑義が生じた場合は、すみやかに監督員の指示を仰ぐこと。

なお、別添図面で示した「標示を省略する境界」については、区域標示及び伐開を省略することとする。

6. 林況調査について

収穫調査箇所は、林内を十分踏査して林分状況に即した標準地を設定し、必要に応じて適切に林相区画（除外地の設定）を行い、より精度の高い調査を行うこと。

7. 復命書の提出について

成果品（収穫調査復命書）は、契約期間内で提出すること。ただし、契約書内訳表の備考欄に復命書の提出期限を記載している小班については調査及び成果品の提出を優先のうえ、成果品の提出期限を令和8年11月27日までとする。

8. 収穫調査委託業務における溪畔周辺の取扱いについて

溪畔周辺の取扱いについては、別紙3のとおり。

9. 地上型3Dレーザスキャナを用いた標準地調査について

「収獲調査委託箇所の概要」の調査方法に「標準地（簡標又は3Dレーザ）」と指定された箇所について、受託者が地上型3Dレーザにて調査を行うことを選択した場合は、別紙4「特記仕様書（地上型3Dレーザスキャナを用いた標準地調査について）」に基づき実施すること。

10. GNSS受信機を用いた測量について

「収獲調査委託箇所の概要」の測量方法に「GNSS又はコンパス」と指定された箇所について、受託者がGNSS受信機を用いて測量を行うことを選択した場合は、別紙5「特記仕様書（GNSS受信機を用いた測量について）」に基づき実施すること。

収穫調査委託箇所の概要

番号	林名区分	国有林名等	林小班	施業群	人天別	林齢	代表樹種	林地傾斜	下層植生	伐採方法	伐採率(%)	調査方法	調査区域積(ha)	伐採帯積(ha)	立木調査面積(ha)	調査材積(m ³)	区域標示距離(km)	通勤距離(km)	歩行時間(分)	押印の要否	搬出関係調査の要否	更新関係調査の要否	蓄積把握の要否	実測作業の要否	コンパス実測距離(km)	GNSS又はコパス計測距離(km)	品質区分(地上型3Dレーザ計測)	調査区分(地上型3Dレーザ計測)	法令関係	その他	標準地設定箇所数	林道通行状況	立製別
1	国有林	小滝外6	3011ろ	アヤマツ	人工林	63	アカマツ	中	中	列間(簡標)	25	標準地(簡標)	2.38		0.05	187	1.14	27	3	否	否	否	否	要	0.09			水涵保、普通共、白神回	区域標示の一部省略	1	東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
2	国有林	小滝外6	3011へ	天然更新型複層林誘導	人工林	61	スギ	中	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	1.87			144	0.43	28	8	否	否	否	否	否				水涵保、普通共、白神回	3011く襲用、区域標示の一部省略		東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
3	国有林	小滝外6	3011と	天然更新型複層林誘導	人工林	58	スギ	中	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	2.38			169	0.42	28	14	否	否	否	否	否				水涵保、普通共、白神回	3011く襲用、区域標示の一部省略		東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
4	国有林	小滝外6	3011ら	天然更新型複層林誘導	人工林	59	スギ	中	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	2.75			232	0.42	28	9	否	否	否	否	否				水涵保、普通共、白神回	3011く襲用、区域標示の一部省略		東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
5	国有林	小滝外6	3011む	天然更新型複層林誘導	人工林	60	スギ	中	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	0.81			61		28	3	否	否	否	否	否				水涵保、普通共、白神回	3011く襲用、区域標示の省略		東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
6	国有林	小滝外6	3011う	天然更新型複層林誘導	人工林	58	スギ	中	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	1.12			92	0.35	28	6	否	否	否	否	否				水涵保、普通共、白神回	3011く襲用、区域標示の一部省略		東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
7	国有林	小滝外6	3011う1	天然更新型複層林誘導	人工林	59	スギ	中	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	1.20			86		28	11	否	否	否	否	否				水涵保、普通共、白神回	3011く襲用、区域標示の省略		東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
8	国有林	小滝外6	3011お	天然更新型複層林誘導	人工林	40	スギ	中	密	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	1.26			32	0.18	28	16	否	否	否	否	否				水涵保、普通共、白神回	3011く襲用、区域標示の一部省略		東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
9	国有林	小滝外6	3011く	天然更新型複層林誘導	人工林	52	スギ	中	疎	列間(簡標)	25	標準地(簡標又は3Dレーザ)	5.95		0.15	271	1.28	28	19	否	否	否	否	否		あり(全木)	現地調査	水涵保、普通共、白神回	区域標示の一部省略	2	東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
10	国有林	小滝外6	3011せ	植栽型複層林	人工林	52	スギ	急	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	12.52			425	2.72	28	42	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3011く襲用、区域標示の一部省略		東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
11	国有林	小滝外6	3011す	植栽型複層林	人工林	59	スギ	中	中	列間(簡標)	25	標準地(簡標)	17.02		0.35	1,452	1.86	28	40	否	否	否	否	要	0.48			水涵保、普通共	区域標示の一部省略	4	東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
12	国有林	小滝外6	3011す1	植栽型複層林	人工林	57	スギ	中	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	2.57			208	0.24	28	23	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3011く襲用、区域標示の一部省略		東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
13	国有林	小滝外6	3011す2	植栽型複層林	人工林	58	スギ	中	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	4.39			237	0.68	28	20	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3011く襲用、区域標示の一部省略		東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
14	国有林	小滝外6	3011ん	植栽型複層林	人工林	63	スギ	急	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	15.90			962	2.14	27	14	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3011く襲用、区域標示の一部省略		東の又林道3011く林小班まで通行可能	製品資材	
15	分取造林	小滝外6	3012ろ		人工林	69	スギ	緩	疎	皆伐	100	標準地(簡標)	7.76		0.40	4,012	2.05	24	28	要	要	否	否	要	0.52			分取造	復命書提出期限令和8年11月27日	4	国道282号通行可能	立木販売	
16	分取育林	小滝外6	3029ぬ1		人工林	59	スギ	急	中	皆伐	100	精密毎木	0.46		0.46	269	0.37	29	6	要	要	否	否	否				水涵保、分取育	復命書提出期限令和8年11月27日		県道2号通行可能	立木販売	
17	分取育林	小滝外6	3031は1		人工林	59	スギ	緩	中	皆伐	100	直径毎木	1.23		1.23	731	0.64	29	1	要	要	否	否	否				水涵保、分取育	復命書提出期限令和8年11月27日		県道2号通行可能	立木販売	
18	分取育林	小滝外6	3031は2		人工林	59	スギ	緩	中	皆伐	100	直径毎木	0.92		0.92	473	0.67	28	3	要	要	否	否	否				水涵保、分取育	復命書提出期限令和8年11月27日		県道2号通行可能	立木販売	
19	国有林	大湯外16	3048へ1	スギ・アカマツ等	人工林	59	スギ	中	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	3.94			223	1.29	42	8	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3048れ1襲用		東の沢林道通行可能	製品資材	
20	国有林	大湯外16	3048よ	広葉樹択伐	天然林	205	広葉樹	平	疎	天然林択伐	30	直径毎木	6.34		6.34	108	2.47	46	39	否	否	否	要	否				水涵保、普通共			東の沢林道通行可能	製品資材	
21	国有林	大湯外16	3048れ	スギ・アカマツ等	人工林	57	スギ	緩	中	定間(簡標)	25	標準地(簡標)	44.79		0.90	2,132	5.02	40	69	否	否	否	否	要	1.17			水涵保、普通共		9	白樺林道起点から1.7kmまで通行可能	製品資材	
22	国有林	大湯外16	3048れ1	スギ・アカマツ等	人工林	58	スギ	緩	中	列間(簡標)	25	標準地(簡標)	19.19		0.40	886	2.69	40	46	否	否	否	否	要	0.52			水涵保、普通共	区域標示の一部省略	4	白樺林道起点から1.7kmまで通行可能	製品資材	
23	国有林	大湯外16	3048れ2	スギ・アカマツ等	人工林	57	スギ	緩	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	7.51			382	0.74	40	44	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3048れ1襲用、区域標示の一部省略		白樺林道起点から1.7kmまで通行可能	製品資材	
24	国有林	大湯外16	3048そ	天然更新型複層林誘導	人工林	57	カラマツ	緩	中	列間(簡標)	25	標準地(簡標)	11.00		0.25	865	1.25	40	48	否	否	否	否	要	0.35			水涵保、普通共	区域標示の一部省略	3	白樺林道起点から1.7kmまで通行可能	製品資材	
25	国有林	大湯外16	3048そ1	天然更新型複層林誘導	人工林	57	カラマツ	緩	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	6.00			475	0.79	40	62	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3048そ襲用、区域標示の一部省略		白樺林道起点から1.7kmまで通行可能	製品資材	
26	国有林	大湯外16	3050い4	スギ・アカマツ等	人工林	46	スギ	中	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	8.94			664	0.44	47	18	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050い7襲用、区域標示の一部省略		温川林道通行可能	製品資材	
27	国有林	大湯外16	3050い5	広葉樹択伐	天然林	215	広葉樹	中	疎	天然林択伐	30	直径毎木	5.12		5.12	95	1.74	47	13	否	否	否	要	否				水涵保、普通共			冷川林道 温川林道分岐から東に0.2kmまで通行可能	製品資材	
28	国有林	大湯外16	3050い6	スギ・アカマツ等	人工林	45	スギ	緩	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	7.98			593	1.13	47	33	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050い7襲用、区域標示の一部省略		冷川林道 温川林道分岐から東に0.2kmまで通行可能	製品資材	
29	国有林	大湯外16	3050い7	スギ・アカマツ等	人工林	45	スギ	中	中	列間(簡標)	25	標準地(簡標)	19.86		0.40	1,912	3.45	48	1	否	否	否	否	要	0.52			水涵保、普通共		4	中の沢林道通行可能	製品資材	
30	国有林	大湯外16	3050い8	スギ・アカマツ等	人工林	44	スギ	中	密	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	16.65			1,602	1.94	49	6	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050い7襲用		中の沢林道通行可能	製品資材	
31	国有林	大湯外16	3050い9	スギ・アカマツ等	人工林	46	スギ	緩	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	17.06			1,056	2.70	50	56	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050い7襲用		中の沢林道通行可能	製品資材	
32	国有林	大湯外16	3050い10	スギ・アカマツ等	人工林	42	スギ	緩	密	定間(簡標)	25	標準地(襲用)	13.72			436	1.57	50	36	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050ろ1襲用		中の沢林道通行可能	製品資材	
33	国有林	大湯外16	3050い12	スギ・アカマツ等	人工林	41	スギ	緩	密	定間(簡標)	25	標準地(襲用)	10.58			672	1.72	51	27	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050ろ1襲用		中の沢林道通行可能	製品資材	

収穫調査委託箇所概要

番号	林名区分	国有林名等	林小班	施業群	人天別	林齢	代表樹種	林地傾斜	下層植生	伐採方法	伐採率(%)	調査方法	調査区域面積(ha)	伐採帯面積(ha)	立木調査面積(ha)	調査材積(m ³)	区域標示距離(km)	通勤距離(km)	歩行時間(分)	押印の要否	搬出関係調査の要否	更新関係調査の要否	蓄積把握の要否	実測作業の要否	コンパス実測距離(km)	GNSS又はコンパス計測距離(km)	品質区分(地上型3Dレーザ計測)	調査区分(地上型3Dレーザ計測)	法令関係	その他	標準地設定箇所数	林道通行状況	立製別
34	国有林	大湯外16	3050い13	スギ・ヒメマツ等	人工林	42	スギ	中	密	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	8.40			143	1.26	51	6	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050い7襲用		中の沢林道通行可能	製品資材	
35	国有林	大湯外16	3050い16	スギ・ヒメマツ等	人工林	44	スギ	中	密	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	1.37			102	0.48	50	21	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050い7襲用、区域標示の一部省略		中の沢林道通行可能	製品資材	
36	国有林	大湯外16	3050い17	スギ・ヒメマツ等	人工林	44	スギ	中	密	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	0.77			50	0.45	50	29	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050い7襲用		中の沢林道通行可能	製品資材	
37	国有林	大湯外16	3050い18	スギ・ヒメマツ等	人工林	45	スギ	緩	中	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	8.63			801	1.36	50	5	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050い7襲用、区域標示の一部省略		中の沢林道通行可能	製品資材	
38	国有林	大湯外16	3050ろ1	スギ・ヒメマツ等	人工林	44	スギ	中	密	定間(簡標)	25	標準地(簡標)	15.40		0.35	810	2.26	50	19	否	否	否	否	要	0.48			水涵保、普通共		4	中の沢林道通行可能	製品資材	
39	国有林	大湯外16	3050ろ2	スギ・ヒメマツ等	人工林	44	スギ	緩	密	定間(簡標)	25	標準地(襲用)	10.19			536	1.44	49	18	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050ろ1襲用		中の沢林道通行可能	製品資材	
40	国有林	大湯外16	3050ろ3	広葉樹択伐	天然林	215	広葉樹	緩	疎	天然林択伐	30	直径毎木	0.81		0.81	13		48	2	否	否	否	要	否				水涵保、普通共	区域標示の省略		中の沢林道通行可能	製品資材	
41	国有林	大湯外16	3050ろ9	スギ・ヒメマツ等	人工林	44	スギ	中	密	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	2.86			239	0.60	50	4	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050い7襲用、区域標示の一部省略		中の沢林道通行可能	製品資材	
42	国有林	大湯外16	3050ろ10	広葉樹択伐	天然林	214	広葉樹	中	疎	天然林択伐	30	直径毎木	1.40		1.40	21	0.80	48	1	否	否	否	要	否				水涵保、普通共	区域標示の一部省略		中の沢林道通行可能	製品資材	
43	国有林	大湯外16	3050ろ11	広葉樹択伐	天然林	214	広葉樹	中	疎	天然林択伐	30	直径毎木	1.60		1.60	24	0.80	47	29	否	否	否	要	否				水涵保、普通共			温川林道通行可能	製品資材	
44	国有林	大湯外16	3050は2	スギ・ヒメマツ等	人工林	43	スギ	緩	密	定間(簡標)	25	標準地(襲用)	13.61			1,291	1.77	50	12	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050ろ1襲用		中の沢林道通行可能	製品資材	
45	国有林	大湯外16	3050に	天然更新型複層林誘導	人工林	90	スギ	中	疎	複層伐(天)	50	標準地(襲用)	3.55			408	0.59	51	14	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050に1襲用、区域標示の一部省略		中の沢林道通行可能	製品資材	
46	国有林	大湯外16	3050に1	天然更新型複層林誘導	人工林	90	スギ	中	疎	複層伐(天)	50	標準地(簡標)	6.00		0.15	578	1.21	51	22	否	否	否	否	要	0.22			水涵保、普通共	区域標示の一部省略	2	中の沢林道通行可能	製品資材	
47	国有林	大湯外16	3050は	広葉樹択伐	天然林	234	広葉樹	中	疎	天然林択伐	30	直径毎木	8.88		8.88	155	3.83	51	33	否	否	否	要	否				水涵保、普通共			中の沢林道通行可能	製品資材	
48	国有林	大湯外16	3050ら	スギ・ヒメマツ等	人工林	39	スギ	緩	密	列間(簡標)	25	標準地(襲用)	7.40			111	1.26	60	3	否	否	否	否	否				水涵保、普通共	3050い7襲用		冷川林道 東側入口から通行可能	製品資材	
49	国有林	大湯外16	3051い1	スギ・ヒメマツ等	人工林	63	スギ	緩	疎	列間(簡標)	25	標準地(簡標又は3Dレーザ)	5.58		0.15	509	1.75	56	6	否	否	否	否	否		あり(全木)	現地調査	水涵保、普通共		2	国道454号通行可能	製品資材	
50	国有林	大湯外16	3051ろ4	植栽型複層林	人工林	98	スギ	中	疎	定間(簡標)	25	標準地(簡標)	9.00		0.20	843	1.93	59	5	否	否	否	否	要	0.26			水涵保、普通共		2	冷川林道 東側入口から通行可能	製品資材	
51	分収造林	尾去山外2	3175と		人工林	69	アカマツ	緩	疎	皆伐	100	標準地(簡標)	1.63		0.10	676	0.82	32	14	要	要	否	否	要	0.18			分収造	復命書提出期限令和8年11月27日	2	水晶山林道通行可能	立木販売	
52	分収造林	尾去山外2	3175た		人工林	69	スギ	緩	疎	皆伐	100	標準地(簡標)	1.40		0.10	565	0.80	31	10	要	要	否	否	要	0.18			分収造	復命書提出期限令和8年11月27日	2	水晶山林道通行可能	立木販売	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	389.65	0.00	30.71	30,019	67.94	-	-	-	-	-	-	-	4.97	0.00	-	-	-	-	-	-	-

支給材料及び貸与品

3号物件:濁川地区外				
品名	品質・規格	数量	単位	引渡場所
番号札	黄色(周囲測量)	2,500	枚	米代東部森林管理署
	白色(標準地)	250	枚	
野帳	立木調査野帳(直径毎木)	3	冊	
	立木調査野帳(精密毎木)	5	冊	
	測量野帳	1	冊	
復命書資料袋		130	袋	

別紙3

収穫調査業務委託における溪畔周辺の取扱に関する特記仕様書

(区域の設定について)

・溪畔周辺区域が含まれると説明された収穫調査箇所においては、区域の範囲等について監督員と打合せのうえ決定するものとする。なお、復命書に添付する施業実施計画図及び実測位置図には、沢に青色を付して凡例に溪畔である旨記載するものとする。

(主伐の調査について)

・皆伐・複層伐の調査については、溪畔周辺区域を保護樹帯として設定・区分し、必要に応じて間伐するものとする。なお、分収林等において契約どおり実行する場合は従来どおり区域全域の調査を行うものとする。

・択伐の調査については、溪畔周辺区域も含めて調査を行うものとする。なお、調査にあたっては本来成立すべき植生の維持・形成に配慮した選木とする。また、必要に応じて伐採を見合わせた区域を除外地として設定するものとする。

(間伐の調査について)

・毎木調査法による定性間伐の調査については、溪畔周辺区域も含めて調査を行うものとする。なお、調査にあたっては本来生育すべき樹種以外を選木するものとする。また、必要に応じて伐採を見合わせた区域を除外地として設定するものとする。

・毎木調査法による列状間伐の調査については、溪畔周辺区域も含めて調査を行うものとする。なお、必要に応じて伐採を見合わせた区域を除外地として設定するものとする。

・標準地調査法による定性間伐・列状間伐の調査については、調査は従来どおり行うものとするが、標準地の設定箇所は溪畔周辺区域外とする。また、必要に応じて伐採を見合わせた区域を除外地として設定するものとする。

(搬出計画図の作成について)

・搬出計画図（搬出系統図）の作成にあたっては、できるだけ水際に近い位置での森林作業道作設を想定しないよう留意するものとする。

特記仕様書(地上型3Dレーザスキャナを用いた標準地調査について)

この特記仕様書は、調査方法に「標準地(簡標又は3Dレーザ)」と指定された調査箇所において、受託者が地上型3Dレーザにて調査を行うことを選択した場合に適用する。

1. 調査方法について

受託者は、調査方法に「標準地(簡標又は3Dレーザ)」と指定された調査箇所において、従来手法又は地上型3Dレーザのいずれかの方法を選択するものとする。

地上型3Dレーザを選択した場合の具体的な調査方法等については、契約後に手交する「地上型3Dレーザを活用した収穫調査実施手順(標準地プロット調査)」(以下、手順書)に沿って実施すること。

2. 使用する機器等について

計測装置及び計測データ解析ソフトウェア等については、以下の規格を満たすものを受託者自身で調達して使用すること。なお、やむを得ず規格外の機器等を使用する場合は、事前に監督職員と協議すること。

(計測装置)

- ① 最大スキャン速度: 43,200 点/秒以上
- ② 立木の検出範囲: 15m以上
- ③ レーザの種類: クラス1
- ④ スキャニング角度: 垂直 270 度以上、水平 180 度以上
- ⑤ その他: GPS 搭載、バッテリー稼働、カラー画像化システム
- ⑥ 記録媒体: 外付け USB メモリ

(計測データ解析ソフトウェア)

- ① 次の計測集計解析が可能であること
(1) 胸高直径 (2) 樹高 (3) 立木本数 (4) 材積 (5) 立木位置図データ
- ② 計測データ解析ソフトウェアは最新のバージョンであること。

(動作環境(PC))

- ① オペレーティングシステム: Windows 10、11(64ビット)
- ② NET Framework: 4.7.2 以上
- ③ プロセッサ(CPU): Intel Core i5 (Intel Core i7 推奨) 以上
- ④ メインメモリ: 8GB 以上
- ⑤ 記憶装置: 5GB 以上の空き容量がある HDD (SSD を推奨)
- ⑥ ディスプレイ: SXGA (1280 × 1024) 以上推奨
- ⑦ USB ポート: 空き USB ポート 1 つ以上

3. 標準地の標示について

標準地は立木に青色スプレー又は青テープで標示するとともに、四隅の立木に収測番号札(白色)を貼ること。また、3Dレーザの計測地点には仮杭を設置し、杭の頭にテープを巻いて計測番号を記入すること。

4. 樹高の補正について

地上型3Dレーザスキャナにより解析した樹高データと実際の樹高に2メートル以上の差異が認めら

れる場合には、計測データ解析ソフトウェアを用いた樹高補正(手順書参照)を行うこと。また、樹高補正を行った立木はテープ等で標示すること。

5. 提出資料について

通常の収穫調査に必要な資料のほか、標準地の面積を表示した「立木配置図」(手順書参照)に「全立木リスト」(計測データ解析ソフトウェアから出力)を添付し、復命書の付属資料として提出すること。

なお、標準地の測量は基本的に地上型3Dレーザスキャナで行うこととし、この場合、標準地に係る測量野帳及び実測原図は不要とする。

6. 計測データの提出について

地上型3Dレーザスキャナで計測したデータについては、事前にウイルスチェックを行ったうえで、大容量ファイル転送サービスで提出すること。なお、アップロードリンクは森林管理(支)署から発行する。

7. 完成検査について

完成検査は立木配置図及び全立木リストを用いて、本数、樹種、品質区分について審査を行い、原調査と現地審査に、本数比で10%以上の差異が生じる場合は再調査とする。なお、直径、樹高及び材積については審査の対象としないが、樹高補正の適否については審査対象とする。

その他の審査事項及び再調査の基準については、「東北森林管理局国有林野産物収穫調査の現地審査要領」のとおりとする。

8. 変更契約について

調査方法に従来手法又は地上型3Dレーザのいずれを選択した場合であっても、契約金額は変更しない。

また、調査方法に従来手法が指定されている箇所において、受託者が現地判断により地上型3Dレーザを使用して調査を行う場合であっても、変更契約の対象としない。ただし、この場合、調査方法の変更について、事前に監督職員と協議すること。

9. その他

この特記仕様書に定めのない事項については、必要に応じ監督職員と協議のうえ決定すること。

特記仕様書(GNSS 受信機を用いた測量について)

この特記仕様書は、測量方法に「GNSS 又はコンパス」と指定された調査箇所の測量作業において適用する。

1. 測量方法について

測量方法に「GNSS 又はコンパス」と指定された調査箇所においては、GNSS 受信機を用いて測量することを基本とするが、受注者の判断によりコンパスを使用することも可とする。

2. 使用する GNSS 受信機について

東北森林管理局国有林野産物収穫調査規程運用6第5項に定める方法が実施可能な機種を使用すること。

3. 精度の検証について

GNSS 受信機を使用する際には、作業前に受信精度の確認を行い、PDOP 値が安定的に4以下を維持できない可能性がある場合には、その他の測量手法を検討すること。

4. 提出物について

測量結果は別紙「測量野帳(GNSS 測量用)」に取りまとめるとともに、実測原図及び実測位置図等に反映すること。

また、GNSS 受信機で取得した電子データについては、事前にウイルスチェックを行ったうえで、電子メール等で提出すること。

5. 変更契約について

受注者の判断によりコンパス測量を行ったものについては、原則として変更契約の対象としないが、第3条の精度検証の結果に基づき GNSS 以外の測量方法を選択した場合や、その他の理由により GNSS 受信機を使用することが適当でないと判断される場合には、監督職員と協議のうえ変更することができる。

6. その他

この特記仕様書に定めのない事項については、必要に応じ監督職員と協議のうえ決定すること。

測 量 野 帳 (GNSS測量用)

No.

使用機種： 面積 (ha)： 国有林 林班 小班
 測地系： 外周 (m)： 調査年月日 年 月 日
 座標系： 調査員

測点 番号	座標値				測定 回数	PDOP	衛星数	方位角 (度)	水平距離 (m)	備 考
	緯度	経度	X	Y						
1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
0										
1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
0										
1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
0										

※1 座標値の表記は小数点第1位以上とし、機器の測定可能な限り詳細に記載すること。
 ※2 表は必要に応じて修正することを可とするが、座標値、測定回数、PDOP値及び衛星数の記載は必須とする。

現場説明に対する質問回答書

現場説明に対する質問事項	質問事項に対する回答